

12月の植物 サザンカ (*Camellia sasanqua* Thunb. ツバキ科)

11月から12月にかけて山道を走ると時々サザンカの白い花に出くわします。晩秋から初冬の道端にはキク科の黄色い花が多いですが、樹木の花でこれだけ大きくて目立つものは珍しく、車で走っていても目に飛び込んできます。2~6mになる常緑広葉樹で、花弁は5~7枚です。日本固有種で、九州、四国と山口県に分布し、吉野ヶ里町松隈には国の天然記念物「千石山サザンカ自生北限地帯」があります。もともとは自生があったと思われますが、現在みられる多くは油をとるために植栽されたもののようで、約2000本が見られます。吉野ヶ里町の木はサザンカになっています。

サザンカは白い花と紹介しましたが、多くの方はサザンカと聞くと赤やピンクの花を思い浮かべるようです。公園に植えられているサザンカからのイメージですが、これらは品種改良された園芸種（タチカンツバキなど）です。野生のサザンカが分布していないのに、市町村の木や花にしているところが全国各地にあります。これらは園芸種を指定したものでしょう。また、サザンカは広く日本人に親しまれており、童謡「たきび」や歌謡曲「さざんかの宿」にも登場しますが、これらも園芸種をよんだものと思われます。白花のサザンカに比べて、赤やピンクの園芸サザンカは開花が遅い傾向にあります。これは厳冬期から早春に開花するツバキの遺伝子が入っているためでしょう。江戸時代に盛んに品種改良が行われたようです。



太良町竹崎